

## 令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・第2学年では分数、割合などの小学校の復習を継続して行った結果、基礎・基本の定着を図れた。
- ・第3学年では基礎的な計算は定着するとともに文章題にする工夫や簡単な問題を解くことで、自分で考えようと努力する姿勢が身に付いてきた。
- ・話し合いや学び合いの活動を通して、様々な考え・解法を知り、自分の考えと比較することでよりよい方法を導き出そうとする生徒が増えた。
- ・テスト直しの課題を継続したことで技能・考え方の向上が見られ、それによる達成感からさらに意欲・関心が高まっている。

#### (2) 課題

- ・3つの観点で区平均を下回っている。特に思考・判断・表現の力を伸ばす必要がある。
- ・関数分野で正答率をあげる必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	正答率は、目標値を下回った。	/	/
第2学年	正答率は、全体的に目標値は上回ったが、区の平均を下回った。	正答率が過去2年間の1年生よりかなり低い。 (第1学年時)	/
第3学年	正答率は、目標値は上回ったが区の平均を下回った。	正答率は、区平均とほぼ同じであった。 (第2学年時)	正答率は、全体的に区の平均を下回った。 (第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値を上回ったが、大田区平均を下回った。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値を上回ったが、大田区平均を下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値を上回ったが、大田区平均を下回った。	正答率は目標値、大田区平均を大きく下回っており、課題である。	正答率は目標値とほぼ同じであった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な問題に関しては、概ね平均に近いが、小数の計算や割合の問題に課題が見られる。方程式等の分野で力を入れ、問題を数多く解かせていく必要がある。	図形、データの活用の分野で課題が見られる。平面図形、データの分析と活用の分野で課題解決の問題や思考を必要とする問題で思考力を身に付けさせる。	記述以外では概ね平均に近い。考えを書かせる機会を増やし、身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算分野は定着してきたが、1次方程式に課題が見られる。連立方程式で力を入れ、問題を数多く解かせていく必要がある。	関数、空間図形の分野に課題が見られる。1次関数、平面図形の分野で課題解決の問題や思考を必要とする問題で思考力を身に付けさせる。	記述以外では概ね平均に近い。考えを書かせる機会を増やし、身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な計算は正答率も悪くなく定着していると思われるが、連立方程式において平均を下回る値を示している。文字式、方程式の分野で問題を数多く解かせていく必要がある。	1次関数、平面図形の分野に課題が見られる。復習を取り入れながら課題解決の問題や思考を必要とする問題に取り組む時間を設け、解法について話し合い、思考力を身に付けさせる。	1次関数、平面図形の分野に課題が見られる。身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。